

# 開発途上国・新興国等における医療技術等実用化研究事業

(令和8年度予算額 298,976千円)

## 1. 事業の目的・概要

- 本事業は、デザインアプローチを用いて開発途上国・新興国等のニーズを十分に踏まえた医療機器・医療機器プログラム等を開発することを目的とし、対象国への市場導入を計画する。開発サポート機関の支援のもと、医療現場における具体的なニーズの把握から試作、薬事申請に至るまでの研究開発を実施する。
- 開発途上国・新興国等は、日本とは異なる医療・事業環境や公衆衛生上の課題を抱えている。本事業は、東南アジア、電気・水道等のインフラが整い難しく医療も十分に行き届かない地域が多いアフリカを対象とし、対象国の現状や課題を深く理解したうえで、現地のニーズや価格水準等に基づいた医療機器・医療機器プログラム等を開発することに重点を置く。
- 現地のニーズを十分に踏まえた医療機器・医療機器プログラム等の開発にくわえて、日本の医療技術等の展開に資するエビデンスの構築を推進することにより、開発途上国・新興国等の公衆衛生上の課題解決に寄与し、日本の医療の国際展開に貢献する。

## 2. 事業のスキーム・成果

補助元



対象国保健省や規制当局対応等で支援

実施主体



開発初期段階

開発後期段階

デザインアプローチ

事業化支援

伴走支援

プログラムスーパーバイザー、プログラムオフィサー体制のマネジメント下で、開発サポート機関、医療の国際展開に係る関係機関とも連携し、研究開発期間から必要に応じて市場導入までをきめ細やかに対応

- デザインアプローチに基づく製品開発  
科学的開発手法を活用し、ニーズや制約に適切に対応した製品を開発する。
- 事業化シナリオの具体／精緻化支援  
認可取得や販売チャネル・メンテナンス体制の構築等を支援する。
- 重層的な伴走支援体制の構築  
市場導入に向けたネットワークの構築や情報収集等の環境整備を行う。

平成29年から17件の実用化研究プロジェクトを実施し、終了12研究課題のうち3課題で現地認可を取得、うち2件が市場導入を実現

実用化課題のテーマと研究成果

導入



日本光電工業社

バッグ換気モニタの開発

心配停止の患児に対して、限られた環境下でも適切な量を送気する機器を開発することにより、新生児医療における心肺蘇生の成功率向上に貢献

導入

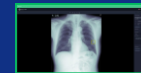


OUI社

予防可能な失明と視力障害の根絶方法の開発

iPhoneアタッチメント型医療機器を開発することにより、これまで眼科医療にアクセスできないまま眼科疾患に罹患した患者群に診断機会を提供

認可



エルピクセル社

肺感染症の検出・重症度判定に向けた画像診断AIの開発

東南アジアにおける重大疾患である結核の隔離、治療判定にAIを用いて行うことで、新たな設備・人的投資を伴うことなく精度の高い検査を提供